

目次

- 第1章 総則（第1条—第4条）
- 第2章 一般基準（第5条—第11条）
- 第3章 実施基準（第12条—第19条）
- 第4章 報告基準（第20条—第24条）
- 第5章 雑則（第25条）

附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この基準は、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）、地方公営企業法（昭和27年法律第292号。以下「公企法」という。）、地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号。以下「健全化法」という。）その他の法令の規定に基づき、監査委員が行う監査、検査及び審査（以下「監査等」という。）並びにその他の行為の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（規範性）

第2条 監査委員は、基準に従って監査等を実施し、及び法令の規定により監査委員が行うこととされているその他の行為を実施するものとし、基準に定められていない事項については、一般に公正妥当と認められる他の関連する基準等を参考にするものとする。

（監査委員の使命）

第3条 監査委員は、法令により定められた権限に基づき、事務事業の執行について監査等を実施し、その結果に関する報告等を決定し、これを提出し、及び公表すること等により、民主的かつ効率的な行政の推進に資するとともに、もって住民の福祉の増進及び地方自治の本旨の実現に寄与するものとする。

（監査等の目的）

第4条 監査等の目的は、次の各号に掲げる監査等の種類の区分に応じ、当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 住民の直接請求に基づく監査 選挙権を有する者の50分の1以上の連署による請求に基づき、事務の執行が法第2条第14項から第16項までの規定の趣旨（以下「法の趣旨」という。）にのっとりなされているか監査すること。
- (2) 議会の請求に基づく監査 議会の請求に基づき、事務の執行が法の趣旨にのっとりなされているか監査すること。

- (3) 財務監査 財務に関する事務の執行及び経営に係る事業の管理が法の趣旨にのっとってなされているか監査すること。
 - (4) 行政監査 監査委員が必要があると認めるとき、事務の執行が法の趣旨にのっとってなされているか監査すること。
 - (5) 市長の要求に基づく監査 市長の要求に基づき、事務の執行が法の趣旨にのっとってなされているか監査すること。
 - (6) 財政援助団体等に対する監査 監査委員が必要があると認めるとき、又は市長の要求があるとき、市が補助金、交付金、負担金等の財政的援助を与えている団体、出資している団体、借入金の元金又は利子の支払を保証している団体、信託の受託者及び公の施設の管理を行わせている団体の当該財政的援助等に係る出納その他の事務の執行が当該財政的援助等の目的に沿って行われているか監査すること。
 - (7) 公金の収納又は支払事務に関する監査 監査委員が必要があると認めるとき、又は市長の要求があるときに、指定金融機関等の公金の出納事務が正確に行われているか監査すること。
 - (8) 住民監査請求に基づく監査 住民が市の職員等による違法若しくは不当な財務会計上の行為又は財務会計上の怠る事実があると認め、監査請求を行ったとき、請求に理由があるか等を監査すること。
 - (9) 市長又は企業管理者の要求に基づく職員の賠償責任に関する監査 市長又は企業管理者の要求に基づき、職員が市に損害を与えた事実があるか監査すること。
 - (10) 共同設置機関の監査 共同設置機関の行う関係普通地方公共団体の財務に関する事務の執行及び経営に係る事業の管理が法の趣旨にのっとってなされているか、規約で定める普通地方公共団体の監査委員が監査すること。
 - (11) 決算審査 決算その他関係書類が法令に適合し、かつ、正確であるか審査すること。
 - (12) 例月現金出納検査 会計管理者等の現金の出納事務が正確に行われているか検査すること。
 - (13) 基金の運用状況審査 基金の運用の状況を示す書類の計数が正確であり、基金の運用が確実かつ効率的に行われているか審査すること。
 - (14) 健全化判断比率審査 健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が法令に適合し、かつ、正確であるか審査すること。
 - (15) 資金不足比率審査 資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が法令に適合し、かつ、正確であるか審査すること。
- 2 前項第3号の財務監査は、定期監査又は随時監査として実施する。

第2章 一般基準

(倫理規範)

第5条 監査委員は、高潔な人格を維持するとともに、信義に従い誠実な態度を保持しなければならない。

2 監査委員は、常に独立かつ客観的な立場に立ち、公正不偏の態度を保持し、正当な注意を払ってその職務を遂行しなければならない。

3 監査委員は、職務上知り得た秘密を他に漏らし、又は他の目的に利用してはならない。その職を退いた後も、同様とする。

4 監査委員は、地方公共団体の財務管理、事業の経営管理その他行政運営に関し優れた識見を有する者として第3条の使命を果たすため、自らの能力の向上及び知識の蓄積を図り、常に自己研さんに努めなければならない。

(指導的機能の発揮)

第6条 監査委員は、第3条の使命を果たすため、監査等の対象となる組織に対し、適切な指導を行うものとする。

(監査等の実施)

第7条 監査委員は、必要に応じて監査等の対象に係るリスク（組織目的の達成を阻害する要因をいう。以下同じ。）を識別し、そのリスクの内容及び程度を検討した上で効果的かつ効率的に監査等を実施するものとする。

2 前項のリスクの内容及び程度の検討に当たっては、必要に応じて、内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価した上で総合的に判断するものとする。

3 監査委員は、監査等の種類に応じ、内部統制に依拠する程度を勘案し、適切に監査等を行うものとする。

(報告の求め)

第8条 監査委員は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第168条の4第3項又は地方公営企業法施行令（昭和27年政令第403号）第22条の5第3項の規定により、指定金融機関等に対する検査の結果について、会計管理者又は企業管理者に対して報告を求めることができる。

(監査調書等の作成及び保存)

第9条 監査委員は、年間監査計画及び実施計画（以下「監査等の計画」という。）、監査等の内容、判断の過程、結果及び関連する証拠その他の監査委員が必要と認める事項を監査調書等として作成し、適切に保存するものとする。

(情報管理)

第10条 監査委員は、監査等において入手し、又は作成した情報が意図せず外部に流出しないよう、情報の管理を徹底しなければならない。

2 監査委員は、監査等において入手した個人情報については、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）の規定により適切に取り扱わなければならない。

(品質管理)

第11条 監査委員は、基準に従ってその職務を遂行するに当たり求められる質を確保するために必要な品質管理の方針及び手続を定めるものとする。

2 監査委員は、前項の品質管理の方針及び手続に従い、監査等が適切に実施されていることを定期的に評価するものとする。

3 監査委員は、監査委員の事務を補助する職員等を適切に監督し、指導するものとする。

4 監査委員は、監査委員の事務を補助する職員等に対し、監査委員の職務が基準に従って遂行されるよう市の財務管理、事業の経営管理その他行政運営に関し、自らの専門能力の向上及び知識の蓄積を図るよう研さんに努めさせるものとする。

第3章 実施基準

(合理的な基礎の形成)

第12条 監査委員は、監査等の実施に当たり、十分かつ適切な監査等の証拠等を入手して、決定する監査等の結果の合理的な基礎を形成するものとする。

(監査等の実施方針及び計画の策定)

第13条 監査委員は、市を取り巻く内外の環境、リスク、過去の監査結果、監査結果に対する措置の状況、監査資源等を総合的に勘案した上で、監査等の方向性及び重点項目等の実施方針を策定するものとする。

2 監査委員は、前項の実施方針に基づき、監査等を効果的かつ効率的に実施することができるよう監査等の計画を策定するものとする。

3 監査委員は、年間監査計画の策定に当たり、リスクの内容及び程度、過去の監査結果、過去の監査の結果に対する措置の状況、監査資源等を総合的に勘案した上で、次に掲げる事項を定めるものとする。

(1) 実施予定の監査等の種類及び対象

(2) 監査等の対象別実施予定時期

(3) 監査等の実施体制

(4) 前3号に掲げるもののほか、監査委員が必要があると認める事項

4 監査委員は、実施計画の策定に当たり、必要に応じて監査等の対象に係るリスクの内容及び程度を検討した上で、その程度に応じて体系的に次に掲げる事項を定めるものとする。

(1) 監査等の種類

(2) 監査等の対象

(3) 監査等の着眼点

(4) 監査等の主な実施手続

(5) 監査等の実施場所及び日程

(6) 監査等の担当者及び事務分担

(7) 前各号に掲げるもののほか、監査委員が監査等の実施上必要があると認める事項

5 第1項の実施方針は、環境等の変化に応じて適宜見直すものとする。

(監査等の計画の変更)

第14条 監査委員は、監査等の計画の前提として把握した事象及び環境等が変化した場合又は監査等の実施過程で、事前のリスクの評価に重大な影響を与えるような新たな事実を発見した場合は、必要に応じて適宜監査等の計画を変更するものとする。

(監査等の手続)

第15条 監査委員は、十分かつ適切な監査等の証拠等を入手できるよう必要に応じて監査等の対象に係るリスクを識別し、そのリスクの内容及び程度を検討した上で、実施すべき監査等の手続を定めるものとする。

2 監査委員は、監査等の結果及び意見を決定するに足る合理的な基礎を形成するため、監査等の手続を定めるに当たり、有効性、効率性、経済性、合規性に着目するとともに、併せて実在性、網羅性、権利及び義務の帰属、評価の妥当性、期間配分の適切性、表示の妥当性等も考慮するものとする。

3 監査等の手続は、試査又は精査による。

4 監査委員は、監査等の実施の結果、異常の兆候を発見した場合等必要があると認める場合は、監査等の手続を追加して実施するものとする。

5 監査委員は、監査等の実施の結果、想定していなかった事象若しくは状況が生じた場合、新たな事実を発見した場合又は不正の兆候若しくは事実を発見した場合は、適宜監査等の手続を追加して十分かつ適切な監査等の証拠を入手し、監査等の結果及び意見の合理的な基礎を形成するものとする。

(実施すべき監査等の手続の適用)

第16条 監査委員は、効果的かつ効率的に十分かつ適切な監査等の証拠を入手するため、実査、立会、確認、証ひょう突合、帳簿突合、計算突合、分析的手続、質問、観察、閲覧等の手法について、得られる証拠の強弱及びその容易性を勘案して適宜これらを組み合わせる等により、最も合理的かつ効果的となるような手法を選択の上実施すべき監査等の手続として適用するものとする。

(各種の監査等の有機的な連携及び調整)

第17条 監査委員は、各種の監査等が相互に有機的に連携して行われるよう調整し、監査等を行うものとする。

(監査専門委員の選任、他者情報の利活用及び調整)

第18条 監査委員は、必要に応じて監査専門委員を選任し、必要な事項を調査させることができる。

2 監査委員は、監査等の実施に当たり、市長部局等（財政援助団体等を含む。）の

内部監査人、監査役、監事、外部監査人等と必要に応じて連携の上情報収集を図り、効果的かつ効率的な監査等の実施に努めるものとする。

3 監査委員は、前項に規定する者から得た情報を利活用する場合は、それらの品質管理の状況等に基づく信頼性の程度を勘案して、利活用する程度及び方法を決定するものとする。

4 監査委員は、学識経験者等から意見を聴く場合は、その必要性を吟味し、自らの責任において利用するものとする。

5 監査委員は、外部監査人との間で、相互の監査の実施に支障がないよう配慮するものとする。

(弁明、見解等の聴取)

第19条 監査委員は、原則として、監査等を実施した結果導き出される指摘、意見、勧告等に関する報告の決定の前に、対象部局等の長から弁明、見解等を聴取するものとする。

第4章 報告基準

(監査等の結果に関する報告等の提出等)

第20条 監査委員は、監査(第4条第1項第8号の監査を除く。)又は検査を終了したときは、結果に関する報告を議会及び市長等(第4条第1項第9号の監査にあつては市長又は企業管理者、同項第10号の監査にあつては他の関係普通地方公共団体の長)に提出するものとする。

2 監査委員は、監査(第4条第1項第7号から第10号までの監査を除く。)の結果に基づき、必要があると認める場合は、結果に関する報告に添えて意見を提出するとともに、当該報告のうち特に措置を講ずる必要があると認める事項について勧告することができる。

3 監査委員は、審査を終了したときは、意見を市長等に提出するものとする。

4 監査委員は、監査等の結果に関する報告等の提出に当たり、住民が理解しやすいよう平易かつ簡潔明瞭な表現とするよう努めるものとする。

(監査等の結果に関する報告等への記載事項)

第21条 監査等の結果に関する報告等には、原則として次に掲げる事項を記載するものとする。

- (1) 基準に準拠している旨
- (2) 監査等の種類
- (3) 監査等の対象
- (4) 監査等の着眼点
- (5) 監査等の主な実施内容

- (6) 監査等の実施場所及び日程
- (7) 監査等の結果
- (8) 前各号に掲げるもののほか、監査委員が必要があると認める事項

2 前項第7号の監査等の結果については、次の各号に掲げる監査等の種類の区分に応じ、重要な点において当該各号に定める事項が認められる場合はその旨その他監査委員が必要と認める事項を記載するものとする。

- (1) 住民の直接請求に基づく監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった事務が法の趣旨にのっとりなされていること。
- (2) 議会の請求に基づく監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった事務が法の趣旨にのっとりなされていること。
- (3) 財務監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった事務が法の趣旨にのっとりなされていること。
- (4) 行政監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった事務が法の趣旨にのっとりなされていること。
- (5) 市長の要求に基づく監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった事務が法の趣旨にのっとりなされていること。
- (6) 財政援助団体等に対する監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった財政援助団体等の当該財政的援助等に係る出納その他の事務の執行が当該財政的援助等の目的に沿って行われていること。
- (7) 公金の収納又は支払事務に関する監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった事務が正確に行われていること。
- (8) 住民監査請求に基づく監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった請求に理由があること。
- (9) 市長又は企業管理者の要求に基づく職員の賠償責任に関する監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった事実があること。
- (10) 共同設置機関の監査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、監査の対象となった事務が法の趣旨にのっとりなされていること。
- (11) 決算審査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり審査した限りにおいて、決算その他関係書類が法令に適合し、かつ、正確であること。

- (12) 例月現金出納検査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり検査した
 - (13) 基金の運用状況審査 前項第1号から第6号までの記載事項のとおり審査した限りにおいて、市長から提出された基金の運用の状況を示す書類の計数が正確であると認められ、基金の運用が確実かつ効率的に行われていること。
 - (14) 健全化判断比率審査 健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が法令に適合し、かつ、正確であること。
 - (15) 資金不足比率審査 資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が法令に適合し、かつ、正確であること。
- 3 第1項第7号の監査等の結果については、前項各号に掲げる監査等の種類の区分に応じ、重要な点において当該各号に定める事項が認められない場合はその旨その他監査委員が必要と認める事項を記載するものとする。
- 4 監査委員は、是正又は改善が必要である事項が認められる場合は、その内容を監査等の結果に記載するとともに、必要に応じて、監査等の実施過程で明らかとなった当該事項の原因等を記載するよう努めるものとする。
- 5 監査委員は、重大な制約等により重要な監査等の手続を実施できなかったことにより、監査又は検査の結果及び意見を決定するための合理的な基礎を形成することができなかった場合は、必要に応じて監査等の結果に関する報告等にその旨、内容、理由等を記載するものとする。

(監査委員の合議)

第22条 次に掲げる事項の決定は、監査委員の合議によるものとする。

- (1) 第4条第1項第1号から第6号まで及び第9号に規定する監査の結果
- (2) 第4条第1項第8号に規定する監査に関する勧告
- (3) 第4条第1項第11号及び第13号から第15号までに規定する審査に関する意見
- (4) 包括外部監査人の監査結果に関する意見
- (5) 住民の直接請求に基づく監査について、個別外部監査契約に基づく監査によること、及び個別外部監査契約の締結に関する意見
- (6) 議会の請求に基づく監査について、個別外部監査契約に基づく監査によること、及び個別外部監査契約の締結に関する意見
- (7) 市長の要求に基づく監査について、個別外部監査契約に基づく監査によること、及び個別外部監査契約の締結に関する意見
- (8) 市長の要求に基づき、財政援助団体等に対する監査を、個別外部監査契約に基づく監査によること、及び個別外部監査契約の締結に関する意見
- (9) 住民監査請求に係る監査について、個別外部監査契約に基づく監査によることの決定及び個別外部監査人が陳述を行う場合の立会いに関する協議
- (10) 住民監査請求に係る個別外部監査の結果に関する報告の請求理由の有無及び

勧告

- 2 監査委員は、監査等の結果に関する報告の決定について、各監査委員の意見が一致しないことにより、前項の合議により決定することができない事項がある場合は、その旨及び当該事項についての各監査委員の意見を議会及び市長等に提出するとともに公表するものとする。

(監査等の結果に関する報告等の公表)

第23条 監査委員は、監査等の結果に関する報告等のうち、第4条第1項第1号から第6号まで、第8号及び第10号について、次に掲げる事項を監査委員全員(除斥その他の事由により監査等を実施しなかった監査委員を除く。)の連名で速やかに公表するものとする。

- (1) 監査の結果に関する報告の内容
- (2) 監査の結果に関する報告に添える意見の内容
- (3) 監査の結果に関する報告に係る勧告の内容

- 2 監査委員の行う公表については、玉名市公告式条例(平成17年条例第3号)の定めるところによる。

(措置状況の報告等)

第24条 監査委員は、監査の結果に関する報告を提出した者及び監査の結果に関する報告に係る勧告をした者に、適時措置状況の報告を求めるよう努めるものとする。

- 2 監査委員は、監査の結果に関する報告を提出した者及び監査の結果に関する報告に係る勧告をした者から、措置の内容の通知を受けた場合は、当該措置の内容を公表するものとする。

- 3 監査委員は、第4条第1項第8号の住民監査請求に基づく監査に係る勧告に基づき、議会又は市長等から必要な措置を講じた旨の通知があったときは、これを請求人に通知し、及び公表するものとする。

第5章 雑則

(その他)

第25条 この基準に定めるもののほか、監査等の実施について必要な事項は、監査委員が協議して定める。

附 則

この告示は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月27日監査委員告示第4号)

この告示は、令和5年4月1日から施行する。